



佐野市を守る

ヒーローズ

Fire Fighter

災

害や火災が起こったときに誰よりも先に駆けつけ、救助活動などを行う消防隊員。令和元年東日本台風の際は、その姿に希望や憧れを抱いた方も多いのではないのでしょうか。隊員の活動は、一歩間違えれば死にもつながりかねないものです。それでも、いざというときに「いのち」を守るため、危険や恐怖と戦い、誰かのヒーローとして活躍しています。

今回の特集では、いつ起きるか分からない災害などに備え、佐野市消防本部や佐野市消防団の皆さんが誰かの「いのち」を守るために、どのような訓練や活動を行っているかお届けします。

もしものときに備え、自分自身にもできることがないか、一緒に考えてみませんか？

い

つ、どんなとき、どんな場所で救助活動を行う必要があるか。想像しても切りがありません。皆さんが生活する中にも、その可能性はあります。

今年1月に、市内の大型商業施設で合同訓練を行い、初期消火や避難者の誘導、消火活動などの演習を行いました。また、救急救護訓練として、佐野厚生総合病院の災害派遣医療チーム（DMAT）も出動し、訓練は本格的なものとなりました。もし、施設で火災が起きたとき、自分ができることは何か。訓練は、隊員だけではなく、従業員の皆さんにとっても重要な時間となりました。



訓練に終わりは無い

同じ災害は二度と来ない。その気持ちを緩めることは一度もない



栃

木県に海はありませんが、川はあります。そのため、水難救助の訓練も行われます。渡良瀬川と隣接する足利市、館林市との3市合同訓練は毎年行われています。

今年の訓練は、佐野高等学校と佐野東高等学校のボート部の学生と一緒に、渡良瀬川で練習中に要救助者を発見したという想定で行われました。訓練に参加した学生は「要救助者に応急手当を行ったが、消防署の皆さんが来るまでの時間がとても長く感じた」と話され、実際に体験することで、その必要性や大変さに改めて気付かされた様子でした。訓練を終え、指揮・統括を行った齋藤光昭警防課長は「これで良いということではなく、訓練に終わりは無い」と力強く、意気込みを語りました。



その想いは消えることのない

ゆずれない熱い想い

消防の業務といえば、消火活動をイメージされる方が多いのではないのでしょうか？ 実際は、消火活動以外にも救助や救急、予防など多岐にわたります。一つ一つの行動が人命に直結する場合もあるため、一人一人が強い使命感をもって業務に当たっています。

このコーナーでは、消防職員が普段どのような業務を行っているかをご紹介します。



救助

東消防署消防第一課
川村 峡介 さん

私が所属する特別救助隊は、救助工作車やはしご車などを駆使し、火災や交通事故、自然災害などあらゆる災害において人命救助の最前線で活動をする小隊です。

災害現場は一つとして同じものではなく、多種多様な災害に対応するため、さまざまなシチュエーションを想定した訓練のほか、休憩時間にも体力錬成を欠かさず行い、災害に備えています。

拝命以来、消防隊、指揮隊を経験し6年目を迎えます。災害現場でより良い活動ができるよう今後も知識、技術の修得に励み、佐野市民の皆さんの「生命、身体や財産」を守っていけるように頑張っていきたいと思います。



予防

消防本部予防課
清水 比佐夫 さん

消防の仕事として一般にはあまりなじみがありませんが、災害現場での活動と並んで重要な仕事が火災予防です。人々の生命や財産を火災から守るために、防火に関する啓発活動や消火器、自動火災報知設備などの消防用設備等の設置指導を行っています。

消防用設備等は直接収益を生み出す性質があるものではなく、指導の際に事業主から強い反発を受けることもよくあり、その都度、丁寧に重要性を説明して、ご理解をいただいています。

火災現場での活動が人命救助の最後の砦であるならば、火災予防は人命救助の最前線であるという信念のもとで日々業務に取り組んでいます。



通信指令

消防本部通信指令課

荒川 智教 さん



救急

東消防署消防第二課

岩上 渉 さん



警防

東消防署消防第二課

石川 里奈 さん

私が所属する通信指令課は、火災や救急、救助などの119番通報を24時間体制で受け付けています。

通報内容により出動車両を決定し指令をかけ、必要に応じてドクターヘリや防災ヘリの出動要請を行うこともあります。業務内容は多岐にわたりますが、私が心掛けていることは、助けを求める人に出動隊が迅速に接触できるよう正確に情報を把握し、円滑な出動指令を行うことです。

通報者の多くは、必死の思いで通報しています。「たすけて」の声を出動隊につなぐ重要な部署であることを認識し、その思いに寄り添えるよう常に意識しています。

救急の業務内容は、救急要請時に現場へ急行し、傷病者の応急処置を行い、適切な医療機関へ搬送することです。

私は、救急救命士として、医療機関へ搬送するまでの間、傷病者への救急救命処置を主に担当しております。救急現場では1分1秒を争うことが多々あり、肉体的、精神的にも大変な面がありますが、搬送した傷病者から感謝の言葉を頂いたときは、救急救命士になって良かったと思います。

救急業務は、救急医療の最前線です。負傷者の命を助け、安全、安心を提供できるやりがいのある仕事です。

消防の業務は、市民の生命、財産を守る大切な役割を担っています。火災現場での消火活動や災害時の救助だけではなく、火災予防の啓発や消防訓練指導、立入検査、火災調査なども行っています。

私は、災害現場で活動するための体力錬成はもちろんのこと、最近では、消防ポンプ自動車の機関員になるため、大型自動車運転免許を取得し、機関員として必要な知識、技術の習得に励んでいます。

消防業務は男性の職場のイメージがあるかもしれませんが、女性消防職員が活躍できる場所が多くあります。今後は、幅広く経験を積み、女性消防職員が活躍できる場所を多く開拓していくことが目標です。

ひとつでも多くの命を救いたい



女性消防団員リーダー

芳村 尚美さん

人の役に立つこと、そして父が消防団員であったこともあって、自らの意思で消防団に入団することを決めました。

現在の女性消防団員は災害時の出勤はなく、AEDを用いた救命講習や防災に関する広報活動を中心にを行っています。

救命講習では、実際に心臓マッサージを行った時の話をする人があります。当然、講習で使用する人形と人では、心臓マッサージの感触やその時の心情は全然違います。教えている私も、講習ではできていても、いざ当事者になるとパニックになってしまう、ということももちろんあります。

まずは、多くの人に救急法を知ってもらい、一つでも多くの命を救うことができれば、という思いで日々活動をしています。

広報活動では、主に火災予防運動週間に、幼年消防クラブの子どもたちとスーパーなどで街頭広報を行っています。元気いっぱいの子もたちと活動することで、私自身も元気をもらい、防火意識を改めて高めることができます。



救命講習、広報活動どちらも市民の方たちと一緒にを行っています。地域とのつながりを感じることができ「楽しいな、自分に合っているな」と、入団して良かったと思う瞬間です。

今後は、災害時の避難所での活動も視野にさまざまな知識を身に付けていきたいです。私たち、消防団員の強みは、市民により近い存在であることです。この強みを生かして、一人一人に寄り添っていきたく思います。

消防団の重要性

消防団の訓練や活動の様子

消防団は地域ごとに組織されており、災害発生時には、いち早く現場に駆けつけ対応に当たる一方、平時には町会と連携した防火・防災訓練の指導や地域行事での火災警戒など、さまざまな活動を行っています。

普段は本業の仕事をしています。「自分たちの町は自分たちで守る」との強い意志のもと、自らの意思で入団し、車両・資機材の整備や必要となる知識・技術の習得に努め、消防署と連携しながら災害対応に万全を期しています。

自然災害が多発する中、地元の事情に精通し、地域に密着したきめ細やかな防火・防災活動を行う消防団の役割は非常に重要です。

＼ 地域防災のリーダー ＼

地域と共に歩み続ける消防団

入団してみて、PTAの役員や町の役員を任せられる機会が増え、地域の方々とコミュニケーションをとるきっかけになりました。また、団員は子育て世代が多く、妻も子どもたちも同じ世代が多いので、家庭内でも共通の話題となっています。

年に一度、消防機械器具の取り扱いと操作の基本について、その技術を競う消防操法大会というものがあ

子どもが小学校に上がる時、地元である石塚町に引越しました。その際、自分の生まれ育ったこの町の人たちと触れ合いたい、これからまたお世話になるこの町のために役に立ちたい、そんな思いから入団を決めました。



ります。その大会に向けて練習をする中で、規律を学び直すことができ、社会人として大切なメリハリをつけて行動をすることにつながりました。

真夏の昼間、夕方過ぎまでなかなか鎮火しない火事現場へ出動したことがあります。火がくすぶっているとところをかいて、水をかけての繰り返し。こっちが消えると思つちがまた燃える。大汗をかいて、一番苦労した現場だったと思いますが、無事鎮火した後は、とても大きな達成感が得られたのを覚えています。

「自分たちの町は自分たちで守る」という郷土愛護の精神のもと、小学校などで子どもたちに消防団の魅力と重要性を伝える活動をしています。それがその子たちの親にも伝わって、地域一丸となって地域を守っていかれたらいいですね。



第12分団（石塚町）班長
寒澤 昌弘さん

地域の役に立ちたい

令和元年東日本台風災害における復興支援



レオ号は
東消防署の玄関に
展示されています！



災害現場で活躍する 消防車両



かがくしゃ

化学車

1,500Lの水と500Lの消火薬液を積載し、一般的な火災に加え、水だけでは対処できない油脂や化学薬品の火災に対して、水と消火薬液を混合して発泡させ、その泡状の消火液を放射して消火します。



災害用ドローン
12月から運用開始！

しきしゃ

指揮車

災害現場で指揮所を設置し、消防部隊の指揮や情報収集・伝達を行います。



はしごしゃ

はしご車

地上高30mまではしごを伸ばすことが可能で、高所での救助や放水を行います。





初代 佐野市消防自動車 レオ号

昭和4年に、消防団の前身である佐野町消防組第1部に配備されたポンプ車で、昭和45年まで火災出動していました。レオ号は、毎分1,800Lの水を放水することができました。当時の購入価格は、6,850円（当時、米1俵の値段は11円）でした。



すいそうつきぼんがしや 水槽付ポンプ車

1,500Lの水を積載し、消防水利が無い場所でも放水することができます。

きゆうじょこうさくしや 救助工作車

あらゆる災害や事故で人を救出するための資機材を約200種類積載しています。重量物を移動・固定するためのクレーンやウインチ、また、夜間活動のための照明装置も備わっています。



きゆうきゆうしや 救急車

救急資器材を車内に積載し、救急救命処置を行いながら病気やけがをした人を病院へ搬送します。



とくしゅさいがしいしえんしや 特殊災害支援車

大規模災害や特殊な災害において、消防隊員の長時間活動を支援するための設備や水難事故に対応する資機材を積載しています。

